

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470600368
法人名	伊勢温泉観光株式会社
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地 (電話番号)	津市戸木町4113-11 (電話) 059-254-0606

評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 9 月 11 日(火)

【情報提供票より】 (H19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤 14人, 非常勤 13人, 常勤換算 20人	

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り		
	5 階建ての	2 階 ~	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)120,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要(8 月 1 日現在)

利用者人数	25 名	男性 9 名	女性 16 名
要介護1	5 名	要介護2	10 名
要介護3	10 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 81.4 歳	最低 68 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中浜胃腸科、外科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

恵まれた自然の中に、隣接する団地と森林公園がある静かな環境の中にあるユニット型グループホームは鉄筋造りの2階、3階、4階になっている。ショートステイを併設した建物の内部は各階、各部屋は木造つくりになっていて木の「ぬくもり」が感じられ安心して落ち着いて暮らせる事業所である。各ユニット共、共同空間および個室も整理整頓され清潔である。また、母体法人の有する観光バスで3ユニット全員で出かける旅行があり大きな楽しみがある事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価の結果を踏まえ、「理念」の文章についてももう少しシンプルにとの指摘を受け、字の大きさに変化を見るも内容は同じである。再度の見直しにより、これまでの理念に加えて、地域密着型として現状にあった内容の見直しが望まれる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>管理者・職員等で自己評価・外部評価の意義や目的、評価後の結果について会議が行われ周知されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域の理解が得られる貴重な会議として3ヶ月に1回開催されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ひまわり通信を月1回発行し、写真を入れて行事報告や個々の暮らしぶりを伝えるため定期的に郵送している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自然環境の良い団地がありその団地の中の自治会に入会し、夏祭りなどの事業所行事には参加を呼びかけ地域の方との交流を図っている。また日々の散歩において地域の方々から声かけされたり、農作物を頂いたり自然な交流が図られている。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1階玄関には基本理念「和顔・愛語」が掲示されている。	○	前回の調査において指摘があった字の大きさについては改善されている。今後、地域密着型サービスとして浸透させていくためには、理念を家族や地域の人々に分かりやすく伝えることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日頃から、管理者と職員が理念を確認しながら地域密着型サービスのあり方を話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	団地に隣接する事業所であり、その団地の自治会に入会、地域での行事、会合に参加し、夏祭りなどの事業所行事にも参加の呼びかけをして地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員等で自己評価・外部評価の意義や目的、評価後の結果について会議が行われ周知されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回開催予定。既に第1回開催されている。メンバーは行政(市福祉課)・老人会長・地区代表等で構成。各代表7名が参加されての会議を行い、評価及び改善計画等を報告・サービス向上に活かしている。	○	運営推進会議メンバーである市の担当者不在の会議が行われたが、できれば代理人を立てていただき、行政が積極的に参加してもらえよう働きかけていくことが望まれる。できれば家族の参加も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の行政との関係は必要時には連絡が取られている。	○	認知症の専門性を事業所側から積極的に市へ働きかけ、市職員等の研修場所として事業所を活用してもらい交流を図ることもしていただくような働きかけが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ひまわり新聞を発行し、生活の様子と金銭の出納状況を報告している。他に個別に、電話や面接時に職員が近況報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部苦情申し立て機関を設置し、家族等が意見・不満・苦情を表せる機会を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が継続的に支えられるような努力が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内でも定期的に勉強会を行っており全国大会の研修会にも参加している。	○	さらに職員の資質向上を目指し、外部研修等を受ける機会の確保等に努力していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員施設内外研修計画で、県内外の同業者との交流の機会を持ち合同研修の取り組みを試みている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している		家族や本人の状況、求めている事柄をよく聞きながら施設を見学してもらっている。19年度の事業計画に基づき取り組んでいる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		一緒に過ごす中で、職員が沈んだり困ったことがあると利用者から頭をなでられ、いたわり励ましてもらう場面があり、暮らしの中で共に支えあえる関係づくりを築いている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		日々の関わりと気づきを大切にしながら言葉をかけ、表情からその人の思いをくみ取り、把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している		本人や家族等の意向を大切にしたい意見を基に、介護計画を作成している。又、介護計画の見直しについては、3ヶ月ごとに行われている。
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		定期的に行っているが、状態の変化ある場合は家族・本人の要望に応じた見直しが行われている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診等への医療処置を受けられるよう外出の支援や移送サービスが行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居により主治医を協力医療機関に変更する場合は、本人・家族の了解を得た上で、前医より情報をもらい本人、家族にも納得してもらえる治療に結びつけている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けてのあり方や、方針をかかりつけ医等と検討をしている。		
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけをして(薬飲んだかの)本人のプライドを傷つけてしまわないように、目立たず、さりげない言葉かけに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、無理に押し付けるのではなく、自由に過ごしてもらおうその人のペースに合わせた支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は食事のサポートは、十分にされているが食事は一緒に食べずに別で食べている。	○	できれば職員も利用者と一緒に、同じ物を同じ席で食べて楽しむ事が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低でも週3回は入浴ができるような支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	袋物バックの修理が得意な人、マージャンやトランプを得意とする人をリーダーに楽しみごとの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	母体法人の有する観光バスで3ユニット利用者全員で出掛けることも多く、温泉や外食へ出掛けるなどの支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間及び事務所が不在になる時以外の1階玄関は施錠されず自由に出入りができる。	○	2ユニットそれぞれの各フロアへの出入り口は自動ロックになっているが、4階のユニットはオープンになっている。できれば各フロアへの出入り口には鍵をかけない工夫が望ましい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、各ユニット合同の消火器の使い方等の訓練がある。2階～4階各ユニットはそれぞれに夜勤者がおり災害に対応できる体制がある。救出時の対応はオブ紐を準備し避難できるような方法を身につけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を記録し一人ひとりの栄養バランスを把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットによって共用の生活空間の違いはあるが、いづれも家庭的雰囲気有している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具類が手元に置かれ本人の居心地を良くしている。		